

「台湾の歴史と文化を訪ねて」に参加して

広大マスタース友の会 黒村寿裕

まずもって広大マスタース「友の会」との連携交流事業である広島大学マスタースのオリジナル企画の海外研修旅行に参加することができ、渡部・原野両先生はじめ関係者の方々に厚くお礼申し上げます。

「友の会」の参加者は3名でしたが、マスタースの先生方と中華料理を囲んでのアカデミックな話題等に接しながら4日間楽しく過ごさせていただき、一層親しみを感じることができました。

このふれあいの大切さを実感した貴重な研修旅行での体験を、今後の「友の会」の活動に反映していければと思っております。

日本統治体験者の談と中国文化大学黄先生の講演では、日清戦争前後から大戦後までの50年間の日本との関わりや、戦後70年未だ国交ない状態にある中、「不幸な交わり」ばかりではなく、見学した八田与一のダム堤防工事や、後藤新平（さとうきび製糖）、磯永吉（改良米）など10指に余る、慕われた殖産貢献者達がいたことなど多くのことを学ぶことができました。

こうした「日本領時代」の背景を学び、更には「国家」「民族」「領土」とは？と思いをはせながら、非常に難しい国際問題を抱えている現実への現地ガイドの屈託ない説明を聞きながらの観光名所・旧跡巡りは、感慨深いものがありました。

日本車・新幹線車両など日本製品も多く、コンビニもありショッピングも日本語OKで、遭遇した美女群団も日本人そっくりで違和感もなく、歴史的な関わり（絆）の深さを実感しました。また、生活の足となっているバイクのスピードに経済発展のバイタリティ、エネルギーを肌で感じ、台湾のイメージを一新する思い出に残る旅でした。

一度は訪れたかった素晴らしい台湾の旅行企画ありがとうございました。

